

## IV. 計画の評価方法の検討

### <ポイント>

#### 1. 評価の枠組み

- 計画の進捗状況を点検・評価するため、個別事業（数値目標を設定した個別事業のアウトプット等）に加え、個別事業を束ねた施策レベル、計画全体の評価も実施することが望ましい。
- 利用者の視点に立った評価指標を設定し、点検・評価を行い、施策の改善につなげていくことが望まれる。そうすることで、これまでのPDCAサイクル（計画－実施－評価－改善検討）の実効性をさらに高める。
- 個別事業を実施し、どの段階まで成果が実現していたのかを分析するため、成果を段階的に補足する評価指標として、例えば、「認知度→利用度→達成度（成果指標等）」を設定する。
- 計画実施前の実績（ベースライン）及び実施後の実績を把握し、後期行動計画を評価することが望ましい。また、後期行動計画の評価方法に基づき、前期行動計画についても評価することができる場合は、前期行動計画の評価も行い、後期行動計画の策定に活用することが期待される。

#### 2. 評価指標例、評価方法例（具体的な評価方法の説明）

- 「1. 評価の枠組み」の考え方に基づく具体的な評価指標例、評価方法例を提示する。
- 既存統計データについては、可能な限り収集し、利用者の視点に立った評価指標と統計データの両方の実績を把握し、点検・評価することが望ましい。
- 利用者の視点に立った施策レベルの成果指標については、意識調査や利用者等に対するグループインタビュー等を通じて、実績を把握する方法が考えられる。

#### 3. 自治体独自の評価指標、評価方法の検討

- 評価指標、評価方法例を基に点検・評価を行うことが望ましいが、「1. 評価の枠組み」に沿った考え方に基づくものであれば、各自治体独自の評価を行うことも可能である。ただし、施策レベルの『地域における子育ての支援』『職業生活と家庭生活との両立の推進』については、自治体の取組比較が可能となるような共通の指標を設定することが望ましい。
- 自治体独自の評価指標、評価方法については、「利用者の視点に立ち」、「計画のPDCAサイクルの実効性を高める」といった視点から、地域住民や子育て支援関係者等の意見を踏まえて検討する。

## ＜具体的な内容＞

### 1. 評価の枠組み

#### (1) 評価対象

前期行動計画では、計画の進捗状況を測定・評価するため、主に個別事業に係る評価指標（数値目標等）が設定され、個別事業の進捗状況の評価をもって計画の進捗状況の評価とされていたケースが多い。後期行動計画においては、計画全体の進捗状況を評価するため、個別事業レベルの進捗状況（アウトプット）に加え、個別事業を束ねた施策レベル、計画レベルの進捗状況（アウトカム）も点検・評価することが重要である。

#### (2) 評価の視点

行動計画策定指針においては、次世代育成支援対策の推進において、利用者の視点に立った柔軟かつ総合的な取り組みが必要であるとされている。このような利用者の視点に立った取り組みの進捗状況を評価するため、単に施策が計画通りに進捗しているかを評価するだけでなく、利用者の視点に立った評価指標を設定し、点検・評価を行い、施策の改善につなげていくことが望まれる。そうすることで、これまでの PDCA サイクル（計画－実施－評価－改善検討）の実効性をさらに高めることができると考えられる。

#### (3) 評価方法

前期行動計画では、個別事業に係る数値目標の達成状況を中心に把握されていることが多く、個別事業を実施した結果、どういう成果があったかといった把握は困難であったと考えられる。そこで、後期行動計画では、成果を段階的に把握する評価指標として、どこに運用改善点があるか把握できるよう、例えば、「認知度→利用度→達成度（成果指標等）」を設定し、評価することが望ましい。

また、後期行動計画においては、計画実施前の実績（ベースライン）及び実施後の実績を把握し、後期行動計画を評価することが望ましい。

計画実施途中についても、「自治体で実施している意識調査」、「マーケティング調査」、「モニター調査」などを活用して、複数年ごとに進捗状況を把握することも考えられる。広域または都道府県において実績把握を行い、市町村にフィードバックすることも考えられる。

さらに、後期行動計画の評価方法に基づき、前期行動計画についても評価することができる場合、例えば、前期計画のニーズ調査において、意識調査を実施しており、満足度など既存データとして把握済みの場合などは、前期行動計画の評価も行い、後期行動計画の策定に活用することも期待される。

PDCAの過程が住民に開かれた形で行われ、利用者の視点に立って行われることが重要であり、子育て当事者、子育て支援活動を行う団体等の参画を得ることも重要である。

2. 国の提示する評価方法例（具体的な評価方法の説明）

(1) 評価指標の設定方法

以下は、上記の「評価の枠組み」の考え方および現行の策定指針の施策体系を踏まえた評価指標のイメージ図である。具体的な評価指標例については、別紙で提示している。

各自治体においては、別紙の評価指標例を参考に指標を設定し、点検・評価を行うことが望ましいが、上記の「1. 評価の枠組み」に沿った考え方に基づくものであれば、各自治体独自で工夫した手法とすることが考えられる。

別紙では、各施策の大項目ごとに考えられるアウトカム指標を例示しているが、すべての施策単位で設定する必要はなく、自治体が重点とする分野を中心に、評価の必要性に応じて設定して構わない。

自治体独自の評価指標、評価方法については、「利用者の視点に立ち」、「計画のPDCAサイクルの実効性を高める」という視点からも、地域住民や子育て支援関係者等の意見を踏まえて、検討することが望ましい。

評価指標のイメージ図

施策		個別事業レベルの評価指標 (アウトカム)	施策レベルの評価指標(アウトカム)			計画全体の評価指標(アウトカム)	
大項目	中項目		個別事業	認知度・理解度	利用度	達成度	
						実績評価	既存指標データ
地域における子育ての充実							
地域における子育ての充実	ファミリーサポート・セーター事業	××箇所	・支援内容の認知度 ・支援目的の理解度 ※以下の施策レベルにこそ同様	・地域のサービス・施設が利用しやすいと感じる割合 ・地域のサービス(サービス対象者に占める利用者の割合) ・地域の中での子育てに満足している割合 ・地域の子育て支援サービスなどの情報が見つけやすいと感じる割合 ・母子保健施設と地域の子育て支援サービスの連携がとれているか	-	【★子育てに関して不安感や負担感を持つ保護者の割合】	●出生数
	子育て短期支援事業(ショートステイ事業)	××箇所					●合併特待出生率
	子育て短期支援事業(トワイライトステイ事業)	××箇所					●世帯あたり子ども数
	地域子育て支援拠点事業	××箇所					●児童のいる世帯の母親の就業率
保育サービスの充実	通常保育事業	××人	【★希望する時期で保育サービスを利用することができた利用者の割合】 ・保育サービスが利用しやすいと感じる割合	●保育所利用率(公私別) ●待機児童数(年齢別) ●保育所において保育施設を併設している施設の割合	●保育所において保育施設を併設している施設の割合	●希望する子どもの数と現実の差	◇出産、育児理由と介護職者の割合
	病児・病後児保育	××箇所				◇「育児」、「子供の教育」に対する悩みやストレスのある父母の割合	
	延長保育事業	××箇所					
	休日保育事業	××箇所					
	夜間保育事業	××箇所					
	特定一時保育事業	××箇所					
	…事業	××箇所					
…事業	××人						

① 個別事業レベルの評価指標

- ・ 個別事業のうち、事業目標を設定した事業については、当該個別事業の実績を把握することが望ましい。事業目標を設定していない事業についても、必要に応じて各自治体で任意に個別事業の実績を把握することが望ましい。

- ・ なお、任意に個別事業を選定する際は、各自治体の事業実施状況を踏まえ、可能な限り、自治体の施策領域で少なくとも1つ、主要な個別事業を選定することが望ましい。

## ②施策レベルの評価指標

- ・ 市町村及び都道府県の計画体系に応じて、アウトカム指標を設定することが望ましい。
- ・ 施策レベルのアウトカム指標として、成果を段階的に把握する評価指標として、「認知度→利用度→達成度（成果指標等）」を設定することが考えられる。ただし、実務上、段階的に評価指標を設定し、把握することが困難な場合は、達成度（満足度等）の評価指標を優先的に設定し、実績を把握することが望ましい。
- ・ 達成度の評価指標は、各施策目標を基に評価指標案を作成しており、満足度等の利用者の視点に立った評価指標と既存統計データを設定する方法が考えられる。可能な限り、利用者の視点に立った評価指標と既存統計データの両方の実績を把握し、点検・評価することが望ましい。
- ・ 満足度等の利用者の視点に立った評価指標については、意識調査や利用者等に対するグループインタビュー等を通じて、実績を把握する方法が考えられる。また、既存統計データについては、可能な限り、例示している既存統計データを参考として、点検・評価を行うことが望ましい。
- ・ なお、都道府県、市町村の間で、実施している事業内容や統計データの整備状況等が異なることが想定されるため、別添資料の評価指標例のうち、都道府県、市町村のいずれで設定、把握することが望ましいかを区別している。

## ③計画全体の評価指標

- ・ 計画全体のアウトカム指標は、意向度等の利用者の視点に立った評価指標と既存統計データを設定する方法が考えられる。可能な限り、意向度等の利用者の視点に立った評価指標と既存統計データの両方の実績を把握し、点検・評価することが望ましい。
- ・ 男性の家事・育児関連時間のデータなど、これまで、地方公共団体では把握されていないデータも多く、都道府県や市町村単位で意識調査などを通じて把握することも考えられる。
- ・ 計画全体のアウトカム指標としては、多様な主体の参画を得て、次世代育成支援対策地域協議会などで設定していくことが重要である。国や都道府県が示す重点的な理念や施策方針、自治体の総合計画等の施策方針、地域のニーズとして把握されたものを合わせて考慮し、設定することが重要である。

### 3. 自治体独自の評価指標、評価方法

#### (1) 評価指標の設定

- ・ 施策レベルの評価指標のうち、「子どもと家族を応援する日本」重点戦略においては、「働き方の見直し」による「仕事と生活の調和」の実現と多様な働き方に対応した保育サービス等の子育て支援策の再構築を「車の両輪」として進めていく必要があるとされており、『地域における子育ての支援』、『職業生活と家庭生活の両立の推進』については、自治体の取組比較が可能となるような共通の指標を設定することが望ましい。指標例としては、以下が考えられる。これらの指標については、各自自治体において意識調査等に基づき設定することが望ましい。

なお、設定された指標については、参考までに国に報告を求めることもあるので、留意願いたい。

#### 共通の指標例

施策	評価指標
地域における子育ての支援	①子育てに関して不安感や負担感を持つ保護者の割合
	②希望した時期に保育サービスを利用することができたと感じる割合（保育サービスの利便性）
	③子育てが地域の人に（もしくは社会で）支えられていると感じる割合（子育てについて、気軽に相談できる人（近所の人・友人）がいる保護者の割合）
職業生活と家庭生活との両立の推進	④仕事と生活の調和の実現が図られていると感じる割合（希望と現実の差）

共通の指標の設問例

【回答者全員】

①子育てに関して不安感や負担感を持つ保護者の割合

【質問 1】あなたは、自分にとって子育てを楽しんでいることが多いと思いますか？それとも辛いと感じることが多いと思いますか？回答欄の中から1つ選んで○をつけて下さい。

回答欄	
a 楽しいと感じることの方が多い	b 楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい
c 辛いと感じることの方が多い	d その他
e わからない	( )

※上記の調査方法は、内閣府「少子化に関する世論調査報告書」（平成 11 年）、「社会意識に関する世論調査報告書」（平成 14 年）を基に作成

【質問 2】（更問：必要に応じ追加）

・上記の【質問 1】で“a”を回答した方にお伺いします。子育てをする中で、どのような支援・対策が有効と感じていますか？

・上記の【質問 1】で“b”“c”を回答した方にお伺いします。自分にとって子育ての辛さを解消するために必要なことは何ですか？

回答欄の中からの中から必要なもの上位3つを選んで○をつけて下さい。

回答欄	
a 地域における子育て支援の充実	b 保育サービスの充実
c 子育て支援のネットワークづくり	d 地域における子どもの活動拠点の充実
e 妊娠・出産に対する支援	f 母親・乳児の健康に対する安心
g 子どもの教育環境	h 子育てしやすい住居・まちの環境面での充実
i 仕事と家庭生活の両立	j 子どもを対象にした犯罪・事故の軽減
k 要保護児童に対する支援	l その他 ( )

②保育サービスの利便性

【質問 3】あなたは、希望した時期に、希望した保育サービスを利用することができましたか。回答欄の中から1つ選んで○をつけて下さい。また、bに○をつけた方は、どのように調整したか内容をお答え下さい。

回答欄	
a 利用できた	b 育児休業を切り上げるなど調整して利用できた
c 利用できなかった	d その他 ( )
bの内容 ( )	

③子育てについて、気軽に相談できる人（近所の人・友人）がいる保護者の割合

【質問 4】あなたは、子育てについて、気軽に相談できる人（近所の人・友人）がいますか？「a. いる」と回答した方は、当てはまるものを選択肢の中から選んで○をつけて下さい。

回答欄	
a いる	b いない
↓	
a 親や家族	b 近所の人
c 子育てのための施設	d 学校や教員
e 行政	f その他（ ）

④仕事時間と生活時間の希望と現実の差

【質問 5】あなたの生活の中で、「仕事時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度についてお伺いします。「希望」と「現実」それぞれについて回答欄の中から1つ選んで○をつけて下さい。

回答欄：「希望」	
a 仕事時間を優先	b 家事（育児）時間を優先
c プライベートを優先	d その他（ ）

回答欄：「現実」	
a 仕事時間を優先	b 家事（育児）時間を優先
c プライベートを優先	d その他（ ）

なお、上記の他にも、住民等の意向を把握する設問の設定が考えられるが、設問例については、前期「地域行動計画策定の手引き」の「IV ニーズ調査」、「4 モデル調査票に必要に応じて加えるべき項目」も参照していただきたい。

(2) 具体的な評価方法

- ・ 後期行動計画においては、可能な限り、成果を段階的に補足する評価指標「認知度→利用度→達成度（成果指標等）」を設定し、認知度、利用度、達成度それぞれの実績を基に、成果の達成段階を把握し、改善方策を検討する方法が考えられる。以下は、この評価方法の一例である。

## 評価方法の例

### 【例1】 認知度 20%→利用度 80%→達成度（利用者満足度など） 70%であった場合

- ・ 認知度は低いですが、認知している者においては、大部分が利用した経験があり、満足度も高い。そのため、改善方策としては、認知度を高めるための周知広報が必要である。

### 【例2】 認知度 80%→利用度 20%→達成度（利用者満足度など） 30%であった場合

- ・ 認知度は高いが、認知している者の半数以下において利用経験が無い。そのため、利用者の利便性の改善等、事業枠組みの再検討が必要である。

### 【例3】 認知度 20%→利用度 20%→達成度（利用者満足度など） 20%であった場合

- ・ 認知度、利用度、満足度のすべてが半数を割っている。そのため、個別事業のアウトプット指標の実績を確認し、個別事業のうち、目標水準を達成していない事業が無いか、供給体制を踏まえて希望する事業量と実際の目標量に大きな乖離がある事業が無いか、といった個別事業に係る分析を行い、改善方策を検討する。

施策		個別事業 への 評価 指標 アノブ ト	施策レベルの評価指標アノブ			計画全体の評価指標アノブ								
大目	中目		個別事業	認知・理解度	利用率	達成度		意向性等	既実施データ					
						実績値	既実施データ							
地域における子育ての支援														
地域における子育ての支援の実	ファミリーサポートセンター事業	××箇所	・支援内容の認知度 ・支援者の理解度	・支援利用率 (サービス利用者 に占める利用者の割合) ※下の施策レベルにも 同様	・地域のサービス施設利用しやすさを感じる割合	-	【★子育てに関して不安感や負担感を持つ保護者の割合】	●出生数						
	子育て短期支援事業(ショートステイ事業)	××箇所			・地域の中の子育てに満足している割合									
	子育て相談支援事業(ファミリーサポート事業)	××箇所			・地域の子育て支援サービスなどの情報を知りやすさを感じる割合									
	地域子育て支援拠点事業	××箇所			・母子保健施設と地域の子育て支援サービスの連携がとれているか									
保育サービスの充実	通園保育事業	××人	【★希望の時期に保育サービスを利用することができず利用者の割合】	●保育所利用率(公認)	-	●保育所において保育士を確保している施設割合	◇児童のいる世帯の母親の就業率	●保育所から子ども数						
	病児・病後児保育	××箇所							●保育所において保育士を確保している施設割合	◇児童のいる世帯の母親の就業率				
	延長保育事業	××箇所									◇出生 育児理由となく離職者の割合			
	休日保育事業	××箇所										◇育児、「子供の教育」に対する悩みやストレスのある父母の割合		
	夜間保育事業	××箇所											■就業率(男女別)	
	特定一時保育事業	××箇所												◇子育てを楽しむと感じる割合
	…事業	××箇所												
…事業	××人													
子育て支援の仕組みづくり	…事業	××箇所	【★子育て地域の人もしくは社会で支えられていると感じる割合】	◇子育てネットワークの構築割合	-	-	-							
	…事業	××人												
	…事業	××人												
	…事業	××箇所												
児童の健全育成	放課後児童健全育成事業	××人	・地域の運動場(児童館)が利用しやすさを感じる割合	-	-	-	-							
	…事業	××人												
	…事業	××人												
	…事業	××人												
	…事業	××人												
	…事業	××人												
母子生活の支え及び児童の健康の確保及び価値														
子どもや母親の健康の確保	妊産婦健診事業	××(検数)	・支援内容の認知度 ・支援者の理解度	・支援利用率	・分娩・出産の経過に対する満足度	●周産期死亡率	●乳児死亡率	■子どもの起末 就業時間						
	…事業	××人			・子どもの健康に対する満足度									
	…事業	××箇所			・子どもが健康的な食習慣を身につけていくと感じる割合									
「食育」の推進	…事業	××人	-	-	-	■不安や悩みのある親子との性に関すること	-							
	…事業	××人												
	…事業	××箇所												
思春期健康対策の充実	…事業	××人	-	-	-	-	-							
	…事業	××人												
	…事業	××箇所												
小児医療の充実	…事業	××人	・地域における小児医療サービスの利便性や安心感 ・地域における小児医療サービスの経費負担感	◇小児人口に対する小児科・新生児科・産科 児童精神科受診率の割合	-	-	-							
	…事業	××人												
	…事業	××箇所												
	…事業	××箇所												
子どもの身の建やかな成長を促す教育環境の整備														
次世代の育成	…事業	××人	・支援内容の認知度 ・支援者の理解度	・支援利用率	・子どもが年少の子と友達や仲間と触れ合う機会が増えていると感じる割合	-	-	-						
	…事業	××人												
	…事業	××人												
	…事業	××人												
子どもの生きる力の育成に向けた学校の教育環境等の整備	…事業	××人	-	-	-	-	-							
	…事業	××人												
	…事業	××人												
	…事業	××人												



【都道府県別】

施策		個事業への 評価指標 (アウトプット)	施策への評価指標(アウトカム)			
大目			認識理解	利用度	達成度	
中目	個事業				実績評価	既存データ
要保児童への対応等の取り組みの推進						
児童虐待防止対策 の充実	…事業	××人	・支援内容の認識 ・支援目的の理解	・支援の利用度	・子どもを地域全体で見守っている と感じる割合	■ 児童虐待率
	…事業	××人				
	…事業	××人				
	…事業	××箇所				
社会的養育体制の 充実	…事業	××人				
	…事業	××人				
	…事業	××人				
	…事業	××箇所				
母子家庭等の自立 支援の推進	…事業	××人				
	…事業	××人				
	…事業	××人				
	…事業	××箇所				
障害児支援の充実	…事業	××人				
	…事業	××人				
	…事業	××箇所				